

『適正に栄養管理を実施しない、できない、それは重大なリスクです』

日本人って、かつては「働け、働け」だったのに、最近ではできるだけ働かないようにするシステムが作られるようになってきています。医師の働き方改革・・・何？これで医療はやっていける？私、若い頃は、大学病院で働きながら外の病院へも診療に行っていました。救急病院での夜勤、翌日はそのまま大学で勤務。土日はほぼ毎週、救急病院で働く。大学でも当直、緊急呼び出し・手術、研究、学会発表、論文執筆・・・そんな生活でした。今はそういう勤務はできない、してはいけない、らしい。働けるだけ働く、それはダメ。この2月は3連休が2回。建国記念の日と天皇誕生日。29日のうちの10日が休み。「2日働き1日休む」よりも休みが多い。これで日本はやっていけるのかなあ、と思うのは、古い考え方なのでしょうか。

大学は1月中旬から春休み。学生達が何をしているのかは知りません。病院実習のようです。本当、この特別教授、学生達のことは何も知らない。困った教授。千里金蘭大学の学食が休みなので、同じ敷地内にある金蘭千里中学・高校の食堂で昼食。食堂のおばさん、いえ、お姉さん達とも仲良しになっちゃいました。メニューも大学より豊富。カレーはいつももあるし、丼やラーメンもあります。4月になってから、大学の学食へ行くか、中高の食堂へ行くか、悩み中です。

仕事はいろいろやっています。3月16日と17日に奈良で開催する第15回リーダーズの準備を会長の森安先生と連絡を取りながらやっています。演題は21題。医師の発表が14題、これはすごい。きっと盛り上がります。まだ事前参加登録も間に合うし、当日参加も可能です。大勢の方の参加をお待ちしています。懇親会もやります。

2月10日には埼玉県大宮へ。AMG(上尾中央医科グループ)のNSTフォーラムでの講演のため。大阪大学第一外科の先輩、彩の国東大宮総合医療センターの院長だった坂本嗣郎先生が中心となって始めたフォーラムで、私は第1回の講演をさせていただき、その後、今回で5回目の講演。第20回記念だから、と呼んでいただきました。せっかくだから？何か、観光をしなくては。大宮の鉄道博物館も行ったし、氷川神社にも行ったし。早めに家を出て、東京駅で途中下車。ふと思いついて東京駅から皇居をうろうろ。新しい発見がいろいろありました。皇居は広い。外国人がたくさんいました。東京駅も人、ひと、ヒト。大賑わいでした。AMG NST フォーラムは症例発表とシンポジウム『チームで栄養を考える』、そして私の講演。シンポジウムは非常によく考えられた内容で、レベルも高く、感心しました。私の講演は、いつもの雰囲気でした。懇親会も楽しい時間でした。翌日、浦和に住んでいる姉の家へ立ち寄りしました。



↑産経新聞の教育欄に掲載されました。インタビューの結果を的確に表現してくれていると私は思っています。看護師、管理栄養士を目指す学生に、医療現場の栄養管理の最前線を教えたいと思っている、その意図を表現してくれています。まあ読んでみてください。



↑久しぶりの東京行き。新幹線から、富士山が見えたのですが、残念。こんな感じで、雲に邪魔されました。いい天気だったのに。



↑東京駅です。やっぱり、すごいなあ。前回、東京へ来た時とずいぶん様子が変わっていました。タクシー乗り場も変わっていたし、東京駅の前は広い広場になっていました。大阪駅と随分違うなあ、さすが、首都、という感じでした。

2月14日はバレンタインデー。かつての義理チョコはなくなって、ある調査では85%以上が義理チョコは渡さないとのこと(私は数人からチョコをいただきました、ありがとうございました)。朝、通勤の車でラジオを聴いていたら、パーソナリティーが「御礼チョコをプレゼントした」という。これはいいアイデアだ!金蘭千里中高の食堂で昼飯を食べた後、15分ほど歩いて近くのセブンイレブンへ行き、レジ袋一杯のチョコを買いました。中高食堂のお姉さん達と、大学の経理や教務など事務の方に御礼チョコをプレゼント。喜んでいただきました。いろいろお世話になっていますので。

2月17日は西宮市の甲子園球場の近く、ホテルヒューイット甲子園で開催された、日本医療マネジメント学会の兵庫支部学術集会に参加。私の講演は午後からですが最初から参加。近所なのに阪急電車と阪神電車を乗り継いで4本の電車に乗りました。乗り換え、乗り換え。教育講演IはCOVID-19で有名な大阪大学感染制御学の忽那教授。特別講演は阪急阪神ホールディングス株式会社代表取締役会長の角和夫氏。私の講演は有名な二人の講演後でしたが、いつも通りに講演しました。角氏の講演が長引いて私の講演時間は10分短縮。まあ、偉い人なので我慢しなくては。久しぶりの甲子園なので、もちろん球場へ。甲子園歴史館でいろいろ資料を見て、バックネット裏へ行けたので甲子園球場全体を見回すことができました。広くて壮観、爽快!甲子園球場は20年ぶり。2004年に母校の八幡浜高校が21世紀枠で春の甲子園大会に出場した時以来。昼飯は甲子園カレーを食べたかったのですが、食べる食堂がない、残念(レトルトカレーは買いました)。甲子園歴史館1階のレストラン「北極星」(オムライス発祥の店)で、オムライスを食べました。

2月28日の産経新聞、教育欄に千里金蘭大学の看護学部と栄養学部での臨床栄養講義についての記事が掲載されました。「医療現場の栄養管理、最前線のリアル学ぶ」との見出しです。それなりに適切な記事を書いてくださったと思っています。「静脈・経腸栄養、胃瘻・・・実践的に指導」です。機会があれば読んでみてください。産経新聞のホームページ「産経ニュース」:
<https://www.sankei.com/>で読めます。



↑東京駅から皇居までは真っすぐ、広い道。信号があるので、真っすぐには歩けませんが、とにかく、一直線です。東京は広い!外国の方々が、いろいろ、写真を撮っていました。



↑和田倉門から皇居内に入りました。初めてでしたが、いろいろ、ありました。整備されている公園です。



↑和田倉噴水公園です。こんな公園があるなんて、知らなかった。1993年の今上天皇(浩宮様)の御結婚を機に整備され、1995年に完成しました。シンボルは1961年に上皇陛下の御結婚を記念して作られた大噴水。それ以外にも、勢いのある水流の滝や、水が循環するモニュメントなどがあります。すてきな公園です。ここも外国人がたくさん。私は噴水が上がるのを待ってうろうろしていました。そういえば、浩宮様は2月23日に64歳になられました。亡くなった私の父と誕生日が一緒なのです。長生きしたら天皇誕生日で祝日になると言っていたのに、先に逝ってしまいました。

←和田倉噴水公園にある記念碑。左上は「この噴水は皇太子殿下明仁親王の御結婚を記念し、全国民の慶祝の熱意によって建設された。われわれはこの現代造形美の結晶を平和日本の象徴として永く後世に遺さんとするものである。昭和36年4月10日。財団法人皇太子ご結婚記念大噴水建設委員会」と書かれています。



ゼン先生：久しぶりに阪神甲子園球場へ行ってきました。

小越先生：阪神タイガースはオフで、沖縄でキャンプ中だろう。
何をしに行ったんだ？

ゼン先生：甲子園球場の近くのホテルで学会がありまして、教育講演をしに行きました。だから、ついでに甲子園球場へ行っただけです。

小越先生：違うんじゃないか？甲子園球場へ行くついでに講演したんだろう？

ゼン先生：先生には読まれていますね。

小越先生：甲子園球場にはいろいろ思い出があるんだろう？

ゼン先生：あります。若い頃、医師として、春・夏の高校野球の救護班の仕事に行きましたから。

小越先生：救護班のバイトだな。仕事はついで、野球観戦ができる仕事だからだろう？

ゼン先生：まあ、そうです。図星です。研修医の時もバイトの当番として行くことができたんです。当番だから抽選。残念ながらその時は行けませんでした。3年半の出張後に阪大第一外科のBクラスとして帰局した時、何回か、行きました。研修医の代わりに行ったりしました。

小越先生：悪い先輩だ。

ゼン先生：でも、バイト代は研修医に渡しました。

小越先生：そうか、それならいい。

ゼン先生：テレビにも映りました。1塁ベースで肩関節を脱臼した選手を診に行きました。その時にテレビに映ったそうです。父が愛媛でテレビを見ていて、息子が映っていると親戚のおばちゃんに電話をしたら、もう画面には映っていなかったそうです。そりゃそうでしょう。

小越先生：ハハハ、笑い話だな。

ゼン先生：いろいろ、楽しい思い出があります、甲子園には。その時は、甲子園カレーを食べて、お腹いっぱいになって、ネット裏でウトウトしていたんです。

小越先生：そうか。その頃からよく昼寝していたんだな。

ゼン先生：まあ、そうです。それから、ちょうど20年前、母校が21世紀枠で春の甲子園大会に出場した時、応援に行きまし



↑ 皇居は広い、本当に広い。日本の象徴だから、当然ですよ。



↑ 皇居も外国人だらけ。外国人は観光して写真を撮って楽しんでいる。日本人は皇居外苑をジョギング中。好対照でした。



↑ 皇居の二重橋。島倉千代子の「東京だよおっかさん」が口をついて出てきます。「久しぶりに手をひいて親子で歩けるうれしさに小さい頃が浮かんで来ますよ おっ母さん ここが ここが 二重橋 記念の写真をとりましょね」です。ここが正門なんですね。この二重橋を見たのは、高校の修学旅行以来じゃないかな。ここで記念写真を撮りました。50年以上前のことです。しかし、ここで写真を撮ったという記憶が全くない。写真があるから、撮ったのは間違いないけど。全然覚えていないのが、怖い！

た。外来診察の日だったんですが、部下の藤田くんに代診をお願いして応援に行きました。

小越先生：お願い？命令したんだろう。上司ぶって。

ゼン先生：いえ、そんなことはありません。

小越先生：まあいいだろう。勝ったのか？

ゼン先生：1回戦で負けました。その大会では、愛媛県代表は2校で、本来の代表の済美高校が全国制覇したんです。だから、八幡浜高校が甲子園に出場したことは、ほとんど記憶に残っていないようです。しかし、記念ボールは買いました。

小越先生：ハハハ、記念ボールか。それから、ペナントも買ったんだろう？

ゼン先生：もちろんです。完全に読まれていますね。

小越先生：単純な君の考え、すぐにわかる。

ゼン先生：もちろん、部屋に飾っています。

小越先生：それも言わなくてもわかっている。

ゼン先生：甲子園で母校の校歌を聞いて、感動して涙が出ました。私、中学・高校ではブラスバンドでトランペットを吹いていて、高校野球の応援によく行っていたので、余計に感動したんです。

小越先生：なるほど。気持ちはよくわかる。若き日の思い出か。50年以上前の思い出だな。しかし、今回は、こんな甲子園の話に終始するのか？

ゼン先生：いくらでも話す内容はあるんです。研修医が顎の傷を縫合することになって、実際に傷を縫ったことがないから蝶々結びをして、結局、近くのクリニックで縫い直したとか。彼女を連れて行ったとか。何と言っても、ネット裏の一番いい席で観戦だったので。

小越先生：もういいよ。君の思い出話に付き合っている余裕はないから。

ゼン先生：すみません。それじゃあ、臨床栄養学について話しましょう。

小越先生：そりゃそうだ。ところで甲子園球場の近くのホテルでの講演では何をしゃべったんだ？

ゼン先生：栄養管理とリスクマネジメントです。

小越先生：なるほど。リスクマネジメントか。

ゼン先生：そうです。栄養管理の話だけではダメなようです。栄養管理？興味ない。そんな人が増えていますから。

小越先生：そんな人？「そんな人」じゃなくて「そんな医師」なんじゃないか？

ゼン先生：医師ですか。でも、医師だけじゃないと思います。最近、看護師や薬剤師も栄養管理には興味がないような雰囲気です。

小越先生：そうか？看護師は興味があるだろう？

ゼン先生：どうなのでしょう。そりゃあ栄養管理に興味がある看護師はいると思いますが、看護師の今の興味は、たぶん、栄養管理ではありません。



↑ 楠木正成の像です。ここは3回目？4回目？楠木正成は江戸へ来たことはないのに、なぜ、ここに銅像？忠臣だからですね。後醍醐天皇をサポートしたから、です。私が勤めていた神戸の川崎病院の傍の楠木正成像よりりっぱです。高村光雲の作ですから。



↑ 第20回 AMG NST フォーラムのシンポジウムです。すごく考えられた内容でしたし、みなさん、きちんとした意見を発表しておられました。感心しました。



↑ 懇親会です。おなじみの方々です。楽しい時間でした。



↑ 医療マネジメント学会の第一会場です。おみやげの「神戸の瓦せんべい」の写真です。会長の山中先生が理事長をしておられる「医療法人 信和会」のデザインが入っています。参加者も多かったし、発表演題も多かったことに、少々驚きました。

小越先生：看護師の興味は何なんだ？

ゼン先生：さあ、何なのでしょう。少なくとも栄養管理ではないと思います。看護師の雑誌、エキスパートナースの照林社だって、もう、栄養管理のセミナーは開催しませんし、雑誌の内容だって栄養管理はテーマとして取り上げられていません。

小越先生：そうなのか。

ゼン先生：そうなんです。看護師の興味の対象って、ものすごく動きます。流行に敏感なのでしょう。それに、右へ動くとなると一斉に右へ動くし、左へ動くとなると一斉に左へ動きます。

小越先生：その右も左も、今は栄養管理ではないんだな。

ゼン先生：もちろんです。本当、どこへ向いているんでしょうか。

小越先生：だから、栄養管理とリスクマネジメントというタイトルで講演したのか。

ゼン先生：そうです。リスクマネジメントには興味があるはずですから。

小越先生：なるほど。栄養管理をきちんとやらない、できない、それは、リスクだ、という意味だな。

ゼン先生：わかっていただけましたか？

小越先生：わかる。非常に大事なことだよ。逆に本質をついているんじゃないか？

ゼン先生：そう思っていますか？

小越先生：もちろんだよ。

ゼン先生：しかし、適切な栄養管理をやらない、やれない、それはリスクだ、とは認識されていないと思います。

小越先生：確かに、今の栄養管理の現状を見ると、その通りかもしれない。今のところ、栄養管理がまずかったということで訴訟になったりはしていないだろう？

ゼン先生：入院中の栄養管理が適切でなかったことを問題にした訴訟も起きています。「入院中に必要な栄養管理を怠ったために父親は餓死した」という訴訟が係争中らしいです。入院前は自分で食べていたのに、だそうです。

小越先生：へええ。そういう訴訟が起きているのか。

ゼン先生：詳しいことはわかりませんが、これからは、そういう訴訟が起きるかもしれません。

小越先生：君がいつも嘆いている、3号輸液だけで1週間、こんなことをしていると、知識がある家族だったら、問題になるはずだな。

ゼン先生：そもそも、そんな管理をすれば栄養障害に陥ることに主治医は気付いていません。気にもしていません。

小越先生：3号輸液だけで1週間も管理すれば、どうなるか、気にしていないのか？

ゼン先生：気にしていないと思います。

小越先生：怖い話だな。要するに、3号輸液の組成がわかっ



↑ 阪神甲子園球場で買った、レトルトの甲子園カレーです。本当の甲子園カレーは真ん中です。レトルトだから、今度、研究室で食べることにしています。シーズン中には、球場内で食べることができますが、試合がない時でも、歴史館で食べられるようにして欲しいですね。



↑ 甲子園歴史館の入口です。展示されていた資料はすごかったのですが、見る時間はありませんでした。駆け足で展示会場を回りましたので。高校野球と阪神タイガースの資料がいっぱいでした。ビデオもたくさんだったので、それを全部見ると、何時間かかるかわかりません。写真もいっぱいでした。一応、学会を抜け出して来ているので、そこまでゆっくりすることはできませんでした。



↑ 私の母校、愛媛県立八幡浜高校が21世紀枠で甲子園大会に出場したのは第76回、2004年。この時、ダルビッシュ投手がノーヒットノーランを達成したのだそうです。優勝は愛媛県代表の済美高校。八幡浜高校は1回戦敗退なので、誰も覚えていないようです。私は、外來を途中で切り上げて甲子園球場に応援に行きました。仕事があるので、行けない、行くべきではないと思っていたのですが、がまんできなかったのです。私の気持ちを理解してくれるいい後輩、藤田くんが代診をしてくれました。当時は日生病院にいたので、甲子園球場は比較的近かったのです。

ていないのだろう。

ゼン先生：3号輸液のグルコース濃度は何%で、500mLを投与した時のエネルギー量は何kcal、これを知らないんです。知らないというか、気にならないんです。点滴さえしておけばいい、でしょう。それに、ヒトって、生きていくためには1日、何カロリーのエネルギーを摂取しなければならないのか、知らないんでしょう。

小越先生：そうか。医師のモラルはそこまで落ちているのか。

ゼン先生：そういう医師が増えている、ということでしょう。

小越先生：だとすると、一日に必要なたんぱく質量も知らないだろう。

ゼン先生：たんぱく質量？考えてもいませんよ。たんぱく質、アミノ酸、それを投与する必要なんて、考えていません。

小越先生：たんぱく質やアミノ酸を投与しないと、栄養障害に陥るって、わかるだろう。

ゼン先生：わからないんです。点滴さえしておけばそれでいい、と思っています。ヒトはたんぱく質やアミノ酸を摂取しなければ生きていけない、当たり前のことなんですが、気にならないんでしょう。

小越先生：身体にたくさん、たんぱく質は蓄えられている、そう思っているのだろうか。

ゼン先生：摂取しないと減るということがわからない、気付かないんでしょう。それに、不可避窒素損失なんて、聞いたこともないんじゃないですか？

小越先生：不可避窒素損失か。ちょっとレベルが高すぎるんじゃないか？

ゼン先生：そうかもしれません。食事をしなくても、尿や便に窒素が排泄されている、これが不可避窒素損失ですが、知らないでしょうね。

小越先生：大学教育では教えていないんだろう。

ゼン先生：そうですね。でも、不可避窒素損失という用語は知らなくても、ヒトって、毎日、尿や便を排泄しています。その中に窒素が含まれているんだから、窒素を補わないとダメだとわかるでしょう。

小越先生：それがわからないんだろう。尿や便に窒素が含まれている、その窒素はたんぱく質の源。たんぱく質を投与しなければ、筋肉などのたんぱく質からの窒素が排泄される、そんなことは考えてもみないんだろう。

ゼン先生：考えてもみない、その通りですね。不可避窒素損失があるから、たんぱく質やアミノ酸を補充しなければ、身体の窒素が失われる、筋肉量が減る、そういうことに気付かないんでしょう。

小越先生：そういうこと。その結果、サルコペニアになって動けなくなる。筋肉が弱っているから転倒する、寝たきりになる。寝たきりになると、さらに筋肉量が減る。嚥下の筋肉も減るから嚥下障害になる。飲めない、食べられない、その結果、栄養



↑ これまでの出場校の名前が入ったボールが飾られていました。ものすごい数です。愛媛県の高校が集まって並んでいたの、八幡浜を見つけることができました。



↑ 阪神タイガースグッズを売っている店へ入ったら、入口に大谷翔平のマグネット。つい、買っちゃいました。1500円もしました。まあ、これだけの選手だから、1500円もやむを得ない。それだけの価値があるのですからね。ふつうは300円でしょう。

障害に陥る、進行する。この悪循環なんて、ちょっと考えるとわかるはずなんだけどな。

ゼン先生：本当にそうですね。とにかく、適切な栄養管理をしないと栄養障害に陥る、これがリスクそのものなんですが、気にならないんでしょうか。

小越先生：ならないんだろう。気になる、その根本的なセンスがないんだろう。

ゼン先生：そこまで教えないとわからないんでしょうか。

小越先生：そうなんだろう、嘆かわしい。特別なことをしなさい、特別な栄養管理をしなさい、と言っているんじゃないよな。

ゼン先生：もちろん、普通にしたらいいんです。ふつうに。

小越先生：必要な栄養素を投与すればいいんだよ。

ゼン先生：そうです。しかし、必要量を理解していないと、無理ですよ。

小越先生：確かにそうだが。必要量って、誰が教えるんだ？

ゼン先生：誰なんでしょう。教えるというより、自分で興味をもったら、すぐに調べられます。

小越先生：基本は興味をもつことだな。知りたいと思うか、そこが基本だな。

ゼン先生：そうです。しかし、興味を持たせるのは、やはり、教育でしょう。

小越先生：教育。そうだな、教育であることは間違いない。

ゼン先生：必要量を摂取できない患者さんには、静脈栄養、経腸栄養という方法で投与してあげたらいいんです。そういう方法が確立しているのに、しない、できない、これはどういうことなのでしょう。

小越先生：その通りだ。医療の基本中の基本だ。さっきの不可避素損失だけど、輸液としてアミノ酸を投与する必要があることも考えないんだろうな。

ゼン先生：そう思います。ちょっとだけ知識が増えると、ビーフリードやパレプラスを投与すればよい、アミノ酸が入っているから栄養管理をしていることになる、と考える医師は多くなっているようです。

小越先生：しかし、ビーフリートにもパレプラスにもアミノ酸がどれだけ入っているのか、500mL を投与すれば何カロリーになるか、知らない、考えない、そう言いたいんだろう？

ゼン先生：そうです。ビーフリートやパレプラスを 500mL 投与するだけで栄養管理をしているつもりになっているんです。500mL 投与しても、210kcal にしかならないんです。アミノ酸としても 15g しか入りません。それで 1 週間も管理すれば、確実に栄養障害に陥ります。それから、もっと細かい話ですが、ビタミン B₁ 欠乏症って、かつて問題になりましたよね。

小越先生：20 年以上前のことだ。それに対する対策として、リスクマネジメントということだが、ビタミン B₁ を配合した末梢静脈栄養輸液（ビーフリート、パレプラス）が開発されたし、TPN 輸液もビタミン入りが普及している。だから、ビタミン B₁ 欠乏症のリスクは低下しているはずだ。

ゼン先生：もちろんです。でも、ビタミン入りではない輸液を投与する時、グルコースが入っている輸液ならビタミン B₁ を投与しなければならない、その認識がなくなっています。その結果、ウェルニッケ脳症を発症して裁判になったりしています。

小越先生：いまだにそんな問題があるのか。

ゼン先生：あるんです。逆に、ビタミン B₁ の必要性に関する認識が薄れています。便利な輸液が開発されたために、です。

小越先生：本当だな。それもリスクだと教えないといけないな。

ゼン先生：そうです。重大なリスクなんです。でも、それを教える人がいないんですよ。

小越先生：だから栄養管理とリスクマネジメントという講演をしなければならないんだ。

ゼン先生：いくらでもネタはあります。本当、いくらでも。危険がいっぱい、なんです。

小越先生：経腸栄養でもリスクはいくらでもあるな。

ゼン先生：もちろんです。身近なところでは、胃瘻の適

応なのに経鼻胃管で経腸栄養をするのも、ある意味、リスクです。経鼻胃管を挿入する時の肺への誤挿入だって、実は、胃瘻を選択すれば起こらないんです。

小越先生：確かに、経鼻胃管を自分で抜いてしまう、繰り返す、その都度、経鼻胃管を入れる、そのたびに肺への誤挿入のリスクがある。

ゼン先生：そういうことです。経腸栄養剤の組成だって、熟知している必要があります。アミノ酸、ペプチド、たんぱく質の問題も大事ですが、経腸栄養剤 100mL に含まれる水分は、1kcal/mL のエネルギー密度の場合には約 85mL だから、別途、水分は追加しなければならない、そういうことも知らない人が多いんです。そうすると、脱水状態を引き起こし、腎機能障害を起こしたり脳梗塞を起こしたりする、これもリスクです。

小越先生：なるほど、栄養管理を実施する上で知っておかないと患者さんに不利益になることって、たくさんあるなあ。

ゼン先生：本当にたくさんあります。それなのに、そういうことを知らずに、勉強せずに、患者さんを診ている、怖い話です。

小越先生：その上、食べられない患者さんの栄養管理には興味がなくなっていて、食べることばかりに力が入っている、そういう現状って、怖いことだな。

ゼン先生：本当に怖いことです。栄養は大事だという声は聞こえてきていますが、なんか、違う方向を向いているように思えます。食べられる人の栄養管理は、そんなに難しくないと思っています。もちろん、メタボ対策は大事ですけど。近代栄養学って、食べられない患者さんをどうするか、そこにもっと力を注ぐべきだと思うんですけどね。

小越先生：静脈栄養・経腸栄養について、もっとレベルアップしてもらわないと、栄養管理におけるリスクはどんどん増えるということだ。

ゼン先生：そうです。十分に食べられない患者さんに対して、静脈栄養・経腸栄養という、新しく開発された方法を駆使した栄養管理をしなければならないと思います。

医薬品医療機器総合機構 PMDA 医療安全情報
https://www.pmda.go.jp/ No.67 2024年 1月

PMDA 医療安全情報
(独)医薬品医療機器総合機構

高カロリー輸液の投与経路に関する注意について

1 高カロリー輸液の誤った投与経路からの投与について

(事例1) 末梢静脈から栄養輸液を投与していたが、主治医は中心静脈(CV: Central Venous)ルートを確認できていると思い込み、高カロリー輸液への変更を指示した。看護師は正しい投与経路の確認をせずに末梢静脈から投与を開始してしまった。

POINT 安全使用のために注意するポイント

- 輸液容器にある「中心静脈点滴専用」等の施用部位表示を確認しましょう。
- 処方時、調剤・監査時、投与・輸液交換時等、各職種において6R[®]を妥当性を含め確認しましょう。

※ 詳細は4ページ目をご覧ください。

小越先生：新しく、じゃないな。もう 50 年以上前から開発されているから。

ゼン先生：確かに。しかし、この 1 月の PMDA の医療安全情報で「高カロリー輸液の投与経路に関する注意について」が出ました。「高カロリー輸液は中心静脈内に投与しましょう」です。

小越先生：へええ。医療安全情報として、輸液の基本中の基本が注意点として掲載されたのか。

ゼン先生：そうなんです。しかも、「高カロリー輸液を末梢静脈から投与すると、患者さんに血管痛や静脈炎などの有害事象が発現するおそれがあります」です。「おそれがあります」ですよ。「痛い！」で済みますか？

小越先生：ひどいな。

ゼン先生：エルネオパ NF2 号やフルカリック 3 号を末梢静脈から投与したという話も聞いています。

小越先生：へええ、としか言いようがない。それは、看護師にそういう知識がないということなのか？

ゼン先生：看護師だけではないでしょう。医師もだと聞いています。医師がフルカリックを末梢静脈から投与するように指示を出し、指示が間違っていることに看護師が気付かず指示通りに投与した、ということです。薬剤師のチェック機構が働くといいんですが。薬剤師のチェックもすり抜けたんでしょう。

小越先生：困ったことだ。そこまでレベルダウンしているのか、恐ろしいことだ。高カロリー輸液が可能になったのは、高濃度のグルコースを中心静脈からなら投与できることにダドリックが気付いたからなのに。歴史も知らないんだなあ。

ゼン先生：そこまでレベルダ

ウンしているんです。だから、栄養管理におけるリスクについて、きちんと教育しないといけないんです。適正な栄養管理ができないことはリスクだと教育しないといけないんです。

小越先生：確かにそうだ。安全管理の方々も、こういう問題にもっと注目して欲しいものだ。

ゼン先生：そうです。それから、栄養管理における感染の問題だって、同じです。静脈栄養は特に血流感染に注意が必要だし、経腸栄養では細菌性下痢や誤嚥性肺炎という感染が問題です。

小越先生：本当だな。

ゼン先生：感染対策の診療報酬の条件に「職員を対象として院内感染対策に関する研修を行う」があります。ここで栄養管理と感染対策の講義をすればいいのに。

小越先生：そういう考え方はしてないだろう。

ゼン先生：医療安全の研修にも、栄養管理とリスクマネジメントという講義は必要だと思います。

小越先生：とにかく、指導的立場の人たちに、栄養管理は、感染の領域、医療安全の領域に密接にかかわっているという認識をもって欲しいものだ。

（今回の内容はちょっと厳しすぎるかもしれませんが、こういう現実もある、起こりつつあると言いたいのです。警鐘の意味も含めた内容にしました。）



【今回のまとめ】

1. 久しぶりに皇居、甲子園球場へ行きました。もちろん、仕事のついでです。皇居も甲子園球場も広い。気持ちがスーッとしました。
2. バレンタインデーの義理チョコは廃れているとのことで、「御礼チョコ」にしました。日頃お世話になっている「御礼」のチョコレート、ちょっとした気持ちの表現、いいですね。
3. 最近は「栄養管理とリスクマネジメント」というタイトルで講演しています。「栄養管理」だけでは興味をもって聞いてもらえないようですから。
4. きちんと栄養管理を実施しない、実施できない、これって、ものすごい「リスク」です。リスクであることにも気づいていない、これも「リスク」です。非常に大事なことだと思います。
5. 「栄養管理とリスクマネジメント」「栄養管理と感染対策」「栄養管理は医療安全だ」なんていう講演を、もっともっといろいろな所、いろんな機会で行わなければならないのじゃないかな？